

公益の風 #3

東北公益文科大学大学院運営委員

准教授 玉井雅隆



皆さんは「北極海航路」という言葉を聞いたことがあるだろうか。日本での知名度は高くないが読んで字のごとく、北極海を貫通する航路である。私の研究テーマは二つあり、一つは欧州安全保障協力機構(OSSCE)、もう一つはこの、北極海航路である。

今から40年くらい前には、北極海は一年中氷が張っており、特殊な砕氷船でもなければ船の通行が難しかった。また氷の下では米ソの戦略原子力潜水艦が、それぞれアメリカ海軍はカナダの沖合に連海軍はソ連の沖合に沈んでおり、核戦争勃発後の反撃用の核戦力として温存されていた。いわば、北極海は環境的にも政治的にも冷たく閉ざされた世界であった。

しかし現在では温暖化

北極海からの風—日本海、北極海、そして庄内

の進展に伴い、北極海の水が夏季には溶けるようになってきており、ロシア沿岸では完全に消滅している。遠くない将来には夏季には完全に北極海から海水が消滅することが予測されている。また冷戦終結に伴い、ロシア側が当該航路の商業利用を積極的に推奨しており、環境的にも政治的にも「氷解」状況となってきている。

我が国からヨーロッパに船で物資を運搬する場合、3ルートがある。一つがスエズ運河を経由する「スエズルート」、もう一つが物理的、もしくは政治的理由によりスエズ運河を通行することが出来ない船がアフリカの南端を通る「喜望峯ルート」、そして「北極海航路」である。我が国のみならず、韓国、中国にとっても同様であるが、ヨーロッパへの最短ルートは北極海航路である。

さて、ここまで読まれた方の中には「山形と北極海航路って何の関係があるの?」と思われる方もおられると思う。しかし、ここは関係が大いにある。

韓国や中国からの北米航路や北極海航路は、日本海から津軽海峡を通過するルートが最短とする。

山形県沖合には多数の韓国船や中国船が通過している。もちろん貨物船だけではない。北極海クルーズの豪華客船も同様であり、現に北極海クルーズ船が青森港に寄港し、乗船客は青森、秋田の観光に向いている。

さて、そこで山形県である。山形県庄内地方には名峰鳥海山、霊峰出羽三山を始めとして最上川、豊饒な庄内平野、あつみ温泉や湯野浜温泉をはじめとしたスパリゾートに酒田、鶴岡と、観光名所には事欠かない。「Oshin(おしん)」は世界共通語であり、「Sakata」「Shonai」は知らなくても、「Oshin」を知らない人はいない。「Oshinのふるさと」から来ました「は世界の各地で通用する。この様に庄内地方は世界的に通用する観光資源には実に恵まれた地である。その上、酒田港は国指定の重要港湾であり、クルーズ客船の寄港実績もある。

秋田県では、秋田港へのクルーズ船来航時に秋田港への貨物路線に列車を走らせ、秋田市を含めた県内各所へ鉄道を使って送客を行っている。酒田港にも貨物路線が通じている。酒田港線を活用し、同じように鶴岡やあ

つみ温泉、鳥海山に送客することは難しいことであろうか。

貨物もまた同様である。酒田新庄道路の全通が迫り、内陸からのアクセスが格段に良くなる。内陸で生産された品目は、今は東京まで運ばれて輸出している。それを酒田港から北極海航路経由でヨーロッパまで運ぶ。これまででは、私たちは東京を見つけてきた。しかし、酒田港の向こうには北極海があり、ヨーロッパがある。私たちの未来もヨーロッパにあるのではないだろうか。

「プルス・ウルトラ」、「その先へ」という意味のラテン語である。これを motto としたのがスペインの絶頂期をもたらした神聖ローマ帝国皇帝カール5世(スペイン王カルロス1世)である。本学大学院では、「グローバル・ガバナンス論」を来年度より開講する。この授業では、北極海航路のように「国」の枠組みを超えたものに関し、地球(グローバル)の枠組みからその管理体制(ガバナンス)を俯瞰していくものである。国際関係論から一歩進んだグローバル・ガバナンス論は、まさに「プルス・ウルトラ」であると確信する。